

# Chairman's Correspondence

## クリエイティビティ系教育とトラディショナル系教育

コロナ前、カリフォルニア州立大学名誉教授のバーバラ・ポーランド先生の案内でカリフォルニアの進んだ保育園、幼稚園、小学校を見学し、ディスカッションをする機会を得てきました。3つの施設とも普段では見られないものを公開していただき、さらに教員や、保護者の意見を聞くチャンスがあり大変有意義でした。



訪問した私立のハイソな幼稚園と小学校は、いわゆる「クリエイティビティ系」の施設で、創造性に力を入れており、幼稚園ではアトリエがあり(私どもリリー幼稚園にもアトリエがあります)、小学校では屋外の理科室で野外授業のできる施設(ボールにもあります)がありました。こういう教育に共通しているのはイタリアのレッジョ・エミリア方式というアートプログラムを取り入れ、格段に力を入れているところです。流行と言っては申し訳ありませんが、その昔は、どこかしこもモンテッソーリ教育でした。米国にはヨーロッパへのあこがれがあるのかもしれませんが。

このような、年少のうちから型にはめないように、発表型教育などでのびのびと発想を育てようという考え方の対極に、初等教育では基礎的な知識をしっかりと教え、その後に創造性を伸ばそうという考え方があります。これを「トラディショナル系教育」(訪問先で保護者が言っておられました)と言うそうです。一昔前「クリエイティビティ型教育」の考え方から、1996年に文科省は「生きる力」を教育の目標に掲げ、2000年から「総合学習・ゆとり教育」を取り入れました。結果、日本中で深刻な学力低下を招いたことは皆さんご存知の通りです。これは、基本的な知識や計算能力など基礎学力をないがしろにして創造性を伸ばそうとしたところに根本的な失敗があったと思います。

それでは「トラディショナル教育がやっぱり正しいの?」と疑問に思うところですが、やはり創造性の芽は大事なのです。特に体験活動が大事です。感性がこの時期に育つからです。つまらない結論かもしれませんが、私どもは「両方」が大事、バランスの問題と考えています。**創造性を司る脳が伸びるのは比較的遅く、10代でも大丈夫。一方、基礎学力の第一歩は(生活習慣も含めて)ほぼ9歳までに伸ばす必要があります。**

米国のこの「クリエイティビティ型」の幼稚園の保護者はこっそり私に言いました。「このままの園教育で有名小学校には受かりません。ですから園ではのびのび遊んで創造性を育て、午後は塾(アメリカにも塾があるんだ!)と驚きましたが)に行かせて『トラディショナル型教育』をしています。そういう親はアメリカでも多いですよ。」この答えに、私は「むむむ?」「ではどんなところに行っておられるのですか?」と聞くと「例えば、Kumon」という答えが返ってきました。恐るべし日本のKUMON!

リリーベール小学校は両方の教育の重要性を認識しています。小さいうちは、塾は必要ありません。今のまま、**リリーベール小学校の宿題で自己学習の習慣がしっかり身につけば(それこそが命)子どもたちは必ず伸びていくこと**でしょう。その習慣を中学校や高校になって身につけさせるのはむずかしい。その頃になって「勉強しろ」と言っても親の言うことなど聞きません。今のうちに習慣化するのです。全く塾に行かないで有名中学校に進学した子を私たちは何人も知っております。



# Chairman's Correspondence

今は習慣を身に付けていく時期です  
学童のねらいはここに 있습니다

## 小中学校のときに学校の勉強ができる人に共通する事項

- ①しつけがしっかりしている。  
…身の回りの始末が上手。
- ②自己学習の習慣が身についている  
…宿題をすぐやる。
- ③自然体験が豊富  
…キャンプの体験など自然体験が多い。
- ④上質の幼児教育を受けている。
- ⑤自分の感情を溜め込まず、上手に表現する。…語彙が豊富。
- ⑥親や先生に必要なとき、きちんと誉めてもらっている。



勉強はそれらの習慣の結果で、一流のアスリート、アーティストも皆こうした習慣をしっかり身に付けてやってきたのです(野球選手の大谷翔平もセリエAの本田選手も高卒ですが自己管理は超優秀です)。

## ではその逆はどうでしょう？小学校期になんとか育ち…

- ①いつもだらしなく、忘れ物やなくし物が多い。
- ②宿題を先延ばしにして、結局忘れる。
- ③家でテレビゲームばかりしている。出かけるのはショッピングモール。
- ④保育は体験型でなく詰め込み型、指示まじの園生活に慣れてきた。
- ⑤言葉で自分の気持ちを表現できず、黙って溜め込んでしまう。よってときどき爆発してしまう。
- ⑥周りからいつもガミガミ、口うるさく叱られるだけのことが多い。



こういう子が思春期の難しい中学生や高校生なって突然、挨拶ができ、自己管理に目覚め、自主的に勉強するようになるのでしょうか？

1年生から4年生までが特に重要です。育脳学童クラブでは、個々の児童の心に寄り添いながら日々、保育をしています。これからもご家庭と学童クラブが、ぜひ同じ方向を向いて子どもたちの可能性を伸ばしていきましょう。

